千葉佐那と龍馬

凛として生きた維新の女、龍馬への愛

千葉道場

叔父　千葉　周作

千葉周作の道場「玄武館」は、江戸三大道場の1つとして人気が高かった。
三千人もの門弟がいたと伝えられる。

父　千葉　定吉

定吉はその弟で土佐藩下屋敷の近くに道場を開き、幕末の志士達も多く政治や戦術の最新の情報が集まった。
定吉には長男重太郎、夭逝した長女、二女佐那の他、2名の妹がおり、弟子の稽古は、師範役の重太郎、佐那(薙刀)が当たっていた。

生い立ち

千葉佐那1837年(天保9年)生
1896年(明治29年)没

北辰一刀流剣術開祖千葉周作の弟・定吉の二女として生まれる。

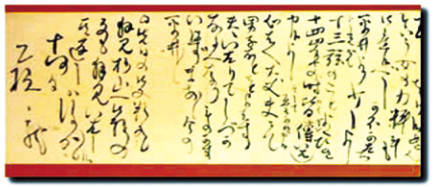
佐那は小太刀に優れ、10代の頃には早くも「北辰一刀流小太刀免許皆伝」の腕前に達し、琴をたしなみ、馬術にも優れていた。

その名は強腕として知れ渡り、「千葉の鬼小町」あるいは、「小千葉小町」と呼ばれるほどの美貌でもあったという。

龍馬との出会い

佐那が16歳の時、江戸に留学してきた坂本龍馬(19歳)が千葉道場(父千葉定吉の桶町道場)に入門。
入門から5年後、龍馬は師定吉から北辰一刀流長刀兵法の目録を授かる。
この頃、佐那と龍馬は互いに好意を持っていたので、父定吉は2人の婚約を認めた。
この時佐那は国のために奔走する龍馬を気遣って、天下静定の後祝言を挙げたいと申し出る。

その後、龍馬は姉乙女に佐那の事についてを手紙に書き、熱く紹介している。



姉乙女宛、龍馬直筆の手紙
北海道坂本龍馬記念館蔵

「この人はおさなといい、今年二十六歳。馬によく乗り、剣もよはど手強く、薙刀もでき・・・・・十三弦の琴をよく弾き・・・・・絵を描き・・・・・心栄えは大丈夫にて男子などを酔わす。」という内容が記されている。

維新、龍馬暗殺

勝海舟を斬りに行った後、勝海舟の弟子になった坂本龍馬は京都に向かう。その時刺客に襲われケガをしたときに、献身的に看護をしてくれたお龍を妻とする。

千住と佐那

灸治院の所在は、千住仲町にあった。
佐那の評判を聞き、板垣退助も治療に訪れた。その紹介を受けた、小田切謙明も治療に訪れ、佐那の治療を受けた。
その灸治院は戦前は縁者が引き継いでいたが、戦災にて焦土と化した後、まちづくりのため移動、現在は道路となっている。

佐那住居跡地(千住仲町)

佐那と甲府

佐那の治療に通っていた、小田切謙明とその妻豊次は、佐那の身の上話を聞くほどにその身の上を案じ、懇意にしていた。佐那の没後は、彼女の墓が無縁仏となるのを恐れ小田切家菩提寺である清運寺に墓をつくり手厚く祀った。墓石の裏側には、叶わなかった「坂本龍馬室」と刻まれている。

千葉佐那の研究

佐那はなぜ千住仲町に住んだの。佐那はなぜ甲府で祀られているの。佐那のなぜを調べています。
2010年の大河ドラマ「龍馬伝」でも、千葉佐那は主要なキャストとして描かれています。
このような歴史を秘めている千住の町は調べるほどに奥が深く、多くの興味深い歴史が眠っています。そんな歴史を楽しみ、足立を、千住を熱く語る佐那研究会にあなたも参加しませんか。